

上山地区社会福祉協議会

# 社協だより

第38号

発行 上山地区社会福祉協議会 令和5年2月10日

発行責任者 山口 知義

## 社会に通用する 子供の育成!

諫早市立上山小学校

校長 有谷 孝彦

令和4年4月1日付で諫早市立上山小学校に着任いたしました。上山小学校の子供たちのために力を尽くし、少しでも学校の生活が豊かになるように努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

4月6日に始業式、4月8日に入学式を行い、全校児童466名と学校関係職員40名が勢ぞろいしました。私は、上山小学校の児童は「街っ子」で、おませさんが多いのかと思っておりましたが、純朴で素直な児童がほとんどで、学校には、おだやかな雰囲気が漂っています。また、保護者や地域の皆さんの教育に対する意識や関

心が高く、授業参観には8割強の参加率でした。職員一同、身の引き締まる思いです。

さて、今年度の学習教育目標を「ふるさとを愛し、自ら未来を主体的に切り拓く児童を育成する」としました。本目標は、諫早市が市政運営で目指す「チャレンジと連携」、諫早市教育委員会が示す「挑戦と創造」をもとに、ふるさと諫早を愛し、何事にも果敢に挑戦し、道なき道を切り開く精神をもって挑む人間に育ってほしいという思いから創り上げました。

加えて、三つの上山小「情やま笑」「上やま昇」「常やま勝」をスローガンとして掲げております。「情やま笑」…感情は表情にでます。「うれしい」「わかった」などが笑顔となって表れるように。「上やま昇」…心の中に上昇志向をもって自分の願いを叶えるよ



うに。「常やま勝」…心地よい競争の中で常に己に勝つ(克己心)強い心をもって。三つの「笑」「昇」「勝」を子供たちの意識の中に浸透させ、社会に通用する心豊かな全人教育を推し進めてまいりたいと思っております。職員には、もう一つ「常やま照」…一人一人の児童を残すことなく照らすことも伝えております。

まだ緒に就いたばかりですが、冒頭でも述べましたように、子供たちの健全育成は、学校と保護者と地域が手を取り合って進められていくものと確信しております。どうぞ皆さんのお力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

## 「協育で教育を」

諫早中学校長 坂口雄二

本校にこの4月からお世話になっております坂口と申します。地域や関係各位の皆様には日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願

いいたします。さて、全国的に少子化が進み、長崎県全体でも生徒数減が留まらない中において本校は県下で

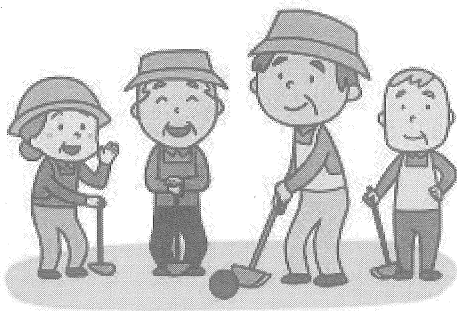
もトップクラスのマンモス校です。上山小、諫早小、小栗小、みはる台小学校区の4校からの入

校生活を送ってくれており、毎朝校門に立つ私に対して表情豊かに元気に挨拶してくれ私自身がエネルギーをもらっています。「かしこく やさしく たくま

現在、コロナ禍にあり、日々の教育活動の実践は困難を極め、生徒や職員には我慢と辛抱を強いることが多く申し訳なく思うと同時にその頑張りに感謝しているところ。例えば、感染対策として毎朝の検温や健康観察のために登校時間を8時10分から8時半の間に限定。給食の無言配膳や黙食の実施。昼休みの過密状態を避けるための時間短縮。等今までになかった文化が根付きつつあります。

いわれる近い未来に対し、生きる力を育み、次世代の担い手としての人間力を持たせたいと思っています。そのために全職員と生徒のもつ力を結集させ教育に邁進します。さらに地域、保護者と手を携えていけば必ず子どもは育つものと信じます。理解し共感しあう姿勢で、未来の宝である子どもを「人に優しく、自分に厳しいたくましさを持った人」に育てたいと思います。これまで以上に皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

しかし、子どもたちはその中であつても元気に明るく日々の学



# 「今年こそ」コロナの 終息を願って」

上山地区社協会長

山口 知義

上山小学校（地）区にお住いの皆様 「令和五年（二〇二三年）明けまして おめでとう ございます。輝かしい 新年を お迎えの事と思います」

ここ三程、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のために、いろいろな行動制限が課せられていきましたが、去年の末から今年の年始にかけては行動制限が解除された事もあって、帰省なども増え、賑やかな新年になった事でしょう。

しかし長崎県下では、まだ感染拡大防止のための県独自の「特別警報」が発令中です。特に、今年にはインフルエンザとの「w感染の流行」も懸念されていた通りに

なりつつあります。年始から今日迄の新規感染者の数字は高止まりの状況です。空気が乾燥しているこの時期は、ウイルスの繁殖には、絶好の増殖時期だそうです。

特に高齢者や呼吸器に障害をお持ちの人達にとっては辛い季節となりそうです。又この後には、花粉の飛来やPM2.5などが濃度を増やせば、その辛さは倍増するでしょう。そんな時期を、乗り越えるためには、自らの行動を自粛し、予防に努める他に方法はなさそうです。

まだ新年は始ったばかりです。これからもいろいろな思いがけない事が起きることもあるでしょう。でも一つ一つ苦難を乗り越えて行けるように、お互いに頑張るしかありません。これまで、新型コロナウイルス感染症で地区社協の行事も自粛という形で、中止の

やむなきになりましたが、今年こそはという気がして居ます。世間は行動制限も解除になりました。

又そのうちに屋外では、ノーマスクになりそうですが、そこは各人の見識が出るとは思いますが、少なくとも屋内や、公共の交通機関では「マスク着用」というのが、常識という事でしょう。岸田首相は、新型コロナウイルスとの共存を思っているようです。一般の人々が以前のようにマスク無しで語り合い、和やかに一堂に会して楽しい時間が過ごせるような日が早く来ることを。

医薬の開発が進み、コロナウイルスがインフルエンザと同じように思える日が来ることをつまり、コロナウイルスの早期の「終息」が来ることを強く願いたいと思います。皆様と楽しく話し合える日を

願って…

## 「はまこつ」 うるいん

南地区老人クラブ連合会

会長 山崎 進

一、ウォーキング

3km弱。 毎朝。雨天休み。

二、囲碁

毎月四週。土曜日。十三時～

十七時まで

囲碁歴 六十三年（へたです）。

年々実力は衰えておりますが仲間と遊べるのが楽しいのです。

一、グラウンドゴルフ

毎週火曜日、午前中、上野町公園

十八 人前後

毎週土曜日、午前中、宇都町公園

十五人前後

ラジオ体操をしてから練習。

コースはどちらも五ホールで

ローカルルール。二回まわって(十ホール)一ラウンドとして休憩。お茶と茶菓子と雑談。

三ラウンドの練習です。ホールインワンがでると祝福の歓声です。

全員が達成しているはず。一

ラウンド(十ホール)中に二回は

きびしくて、数人です。私もその

中の一人です。

※先が見えづらい今日どう生き

たら良いのか、それぞれですが健

康づくりは感染予防と運動をす

ることから…。

仲間との会話も減り、気力、体力

の低下、ストレス増が心配です。

このような状態を「フレイル」と

いうようですが…「〇〇にはま

る」ことは日常生活のオアシスの

一つだと考えております。体力に

あわせて少しでもストレス減に

努力しましょう。

### 上山校区青少年

### 健全育成会連合会

会長 山口 学

今、長崎県では「ココロねっこ

運動」が諫早市では「いさはや運

動」が展開されています。上山校

区青少年健全育成会連合会でも

県・市の取り組み方と共有しなが

ら、あいさつ、声かけ、見守り運

動を実践し、健全育成会の総会に

おいて、親子で楽しく参加出来る

ような事業を会員皆様方で検討

を重ね、子ども達に、いろんな経

験や体験を通して子ども達の成

長を家庭、学校、育友会、職場や

各団体との連携をとりながら地

域全体であたたかく育みながら

支援を行い、親子での絆を更に深

めて行くことを目的としており

ます。

研修部の親子スケッチ大会、社

会部では、元諫早自然保護協会

員の案内による「上山公園自然

観察会」観光ボランティアの方

による「諫早歴史散策」体育部

は、中学生以上の男女の皆様方

との親睦を図る「ミニバレー

ボール大会」文化部は、年三回

発行する南街道、部会の中で一

番忙しい担当部会です。近年新

型コロナウイルス感染拡大で南

街道のみの発行で、すべての行

事が中止の状況です。

上山小学校と一体となつての

「宿泊体験リーダー研修」集団

下校の見守り、二年生対象のい

も差し、いも掘り(収穫)、持

久走の手伝いなどいろんな行事

に参加することで大人と子ども

を繋ぐ知恵と知識、会話と愛情

の大切なバトン渡しだと思いま

す。しかしながら、少子化が進

み児童数の減少、子ども会の未

加入増により、存続の危機に直面中です。

絶やす訳にはいきません。これか

ら先も育成会役員一同、皆様のご

指導・ご助言をいただきながら、

時代を担う上山っ子、精一杯がんば

ばって活動していく所存で一杯

です。地域の子どもたちと今後と

も暖かく見守り続けてください

ますようお願い申し上げます

のあいさつといたします。

